

4回目となるフォーラム「まち・みち・たてものを、愛でる・いじる・生かす」は、「美術と街巡り・浦和」のイベント・プログラムです。主題にある「高燥の地」とは、2019年に「美術と街巡り…」のシリーズ講演で来ていただいた安野先生から出た言葉で、土地が高所であって乾燥しているという意味です。関東大震災後に浦和の鹿島台に移り住んできた人たちは、耕地整理事業後で土地が整備されていたということはもちろんですが、ここを高燥の地として捉えたのではないか。それは大宮の盆栽村あたりにも共通していて、大宮公園に池があるように、浦和の鹿島台も別所沼に隣接しています。立原道造が別所沼のほとりに「ヒアシンスハウス」を構想したのもそんな風に押されたのではないのでしょうか。大正から昭和初期にかけての歴史を紐解きながら、文教都市のイメージが成立していく道筋を探って、参加者の方々も含めて議論できれば幸いです。(青山恭之)

## ● 講演者プロフィール

### 安野 彰

(やすの あきら)

近現代文化・環境形成史／博士(工学)  
日本工業大学建築学部建築学科教授  
東京工業大学大学院総合理工学研究科人間環境システム専攻博士後期課程修了 文化女子大学造形学部住環境学科(現文化学園大学造形学部建築・インテリア学科)専任講師、准教授を歴任

### 津村 泰範

(つむら やすのり)

修復建築家／長岡造形大学造形学部建築・環境デザイン学科准教授  
東京大学大学院建築学専攻修士課程修了、主に近現代の文化財・歴史的建造物の保存再生工事の設計監理実務を歴任 さいたま市「ヒアシンスハウス」夢の継承事業や、所沢市「トトロのふるさと基金」活動拠点「クロススケの家」の再生整備など、埼玉県内地域有志と協働した活動を展開し、現在も継続



公園池畔のポートハウスにて  
(昭和10年代) ※1

大正10年、ポート池の北に建てられた大宮遊園地ホテル ※3



「大宮町全図」の一部  
(昭和8年) ※3

- 出展  
※1:『さいたま市の100年』  
※2:『浦和の歩み』  
※3:『大宮の昔と今』

## 参加申込方法

聴講無料 定員100名 申込期間；2月8日(土)から定員に達した時点で締め切らせていただきます。

- 申込みフォームでのお申込み QRコードよりご利用ください。
- メールでのお申込み 下記①~⑥を明記のうえお申込みください。  
①氏名(漢字) ②氏名(フリガナ) ③電話番号 ④メールアドレス  
⑤人数 ⑥同行者氏名 送付先：info-kaikan@saf.or.jp  
※件名に「3/15フォーラム参加申込」とお書きください。
- 窓口でのお申込み

埼玉会館B1F受付にて申込用紙にご記入ください。 受付時間：休館日を除く 10:00~19:00

### 【関連企画・まち歩き 申込方法】

申込みフォーム・申込用紙をご利用の方は、「まち歩き参加希望」の欄にチェックしてください。メールでのお申込みの方は、メールに「まち歩き参加希望」とご記載ください。先着順のご案内となりますので、お申込み後に受け付け状況についてメールでご連絡いたします。定員に達した場合、ご希望に沿えない場合がございますのでご了承ください。

※最新情報は、埼玉会館ホームページをご覧ください。



## 埼玉会館 SAITAMA HALL

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4  
お問合せ Tel;048-829-2471(代)

休館日を除く 10:00~19:00

Mail ; info-kaikan@saf.or.jp

https://www.saf.or.jp/saitama

電車でのアクセス JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線・湘南新宿ライン 浦和駅(西口)下車 徒歩6分

